

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

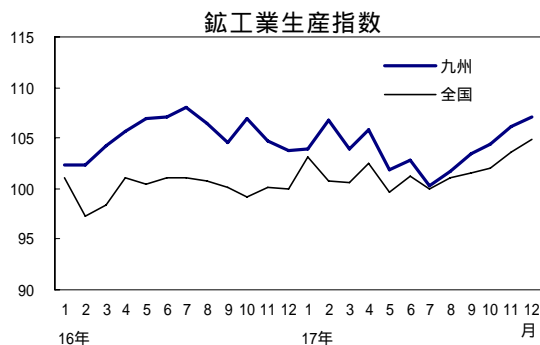
前回調査からの主要変更点

	前回（平成17年11月）	今回（平成18年2月）	
景況判断	弱いながらも回復の動きがみられる	緩やかに回復している	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
個人消費	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイスは、車載向けの高付加価値品に加え、薄型液晶テレビといったデジタル家電向けが好調なことから、引き続き増加している。輸送機械は、船舶が国内外からの好調な受注を反映して高操業を続けているほか、自動車も新型車を中心に生産水準を引き上げていることから増加した。一般機械は、半導体製造装置が外需を中心に、液晶製造関連製品も国内外での薄型パネル増産を背景にいずれも増加している。食料品・たばこは、焼酎は引き続き好調であったが、清涼飲料、肉製品が低下したことから減少した。化学は、農薬やエチレンなどの海外需要が好調なことから増加した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年12月の九州は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

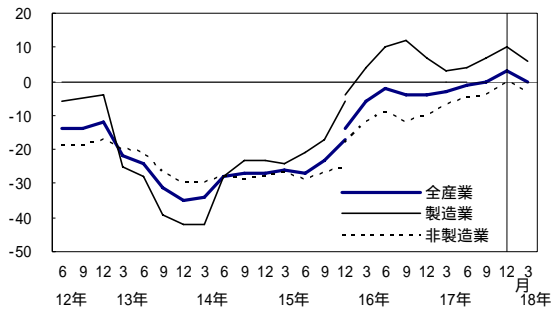
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	14.9	0.2	6.1	4.5	6.1
輸送機械	11.7	4.3	6.4	3.8	43.1
一般機械	11.0	6.9	14.4	15.3	6.2
食料品・たばこ	10.8	3.9	0.4	1.1	2.7
化学	8.5	0.0	2.2	5.3	8.6
鉱工業	100.0	1.6	4.0	3.9	1.1

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

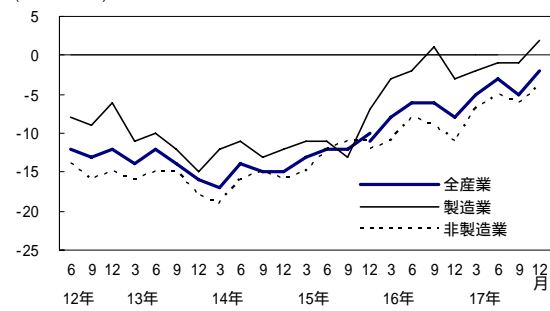
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



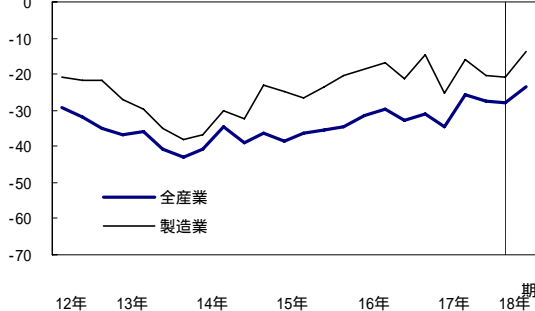
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「受注価格が低く、受注数量も限られ、状況としては変わらない(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

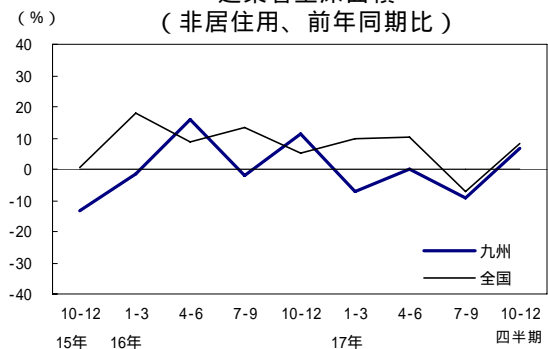
(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	6.2	4.9(1.3)
製造業	38.7	13.6(1.2)
非製造業	8.3	0.9(1.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、催事効果からバック等の身の回り品や腕時計等の雑貨に動きがみられたものの、気温が高めに推移したことから秋冬物を中心に衣料品の動きが鈍かったため、全体としては前年を下回った。11月は、下旬以降の冷え込みからコートなどの冬物重衣料に動きがみられたほか、クリスマスギフトや個人を中心とした歳暮の早期受注等から、飲食料品、その他も好調だったことから前年を上回った。12月は、歳暮の早期受注の反動から飲食料品が前年を下回ったもの、記録的な気温の低下から、引き続き冬物衣料を中心に衣料品が好調だったことから前年を上回り、全体としても前年を上回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の1月の売上高は、前年同月比で2.1%の減となっている。

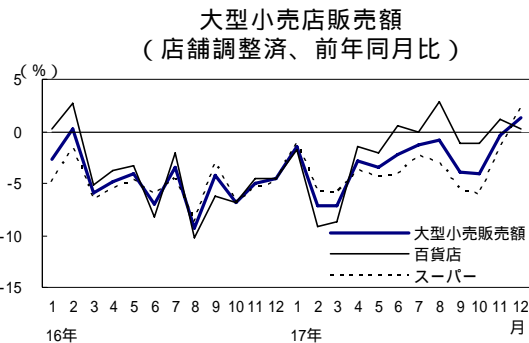
スーパーは、記録的な気温の低下から11月下旬以降は冬物衣料や鍋商材がよく動いたが、それ以前の衣料品や飲食料品の動きが全般的に鈍かったことから全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

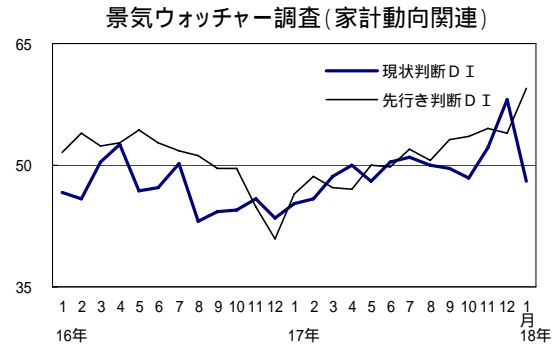
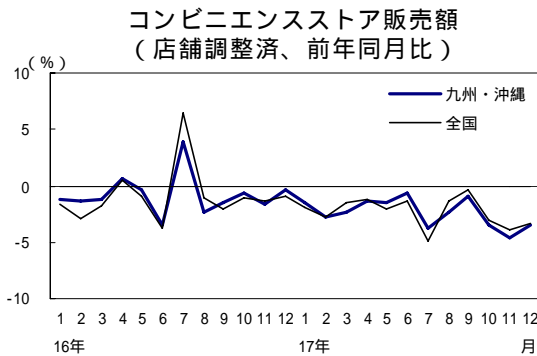
「前月までは寒波の影響によりクリアランス前の実売期でシーズン商品が好調に動いたが、今月は寒波の緩みで鈍化した。必要な物を必要な時に購入する堅実な購買姿勢が定着している(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	5.1	2.9	1.9	0.7
百貨店	6.4	1.0	0.4	0.2
スーパー	4.1	4.1	3.6	1.5
コンビニ	2.2	1.2	2.4	3.9
景気ウォッチャー	46.6	49.5	50.2	52.9



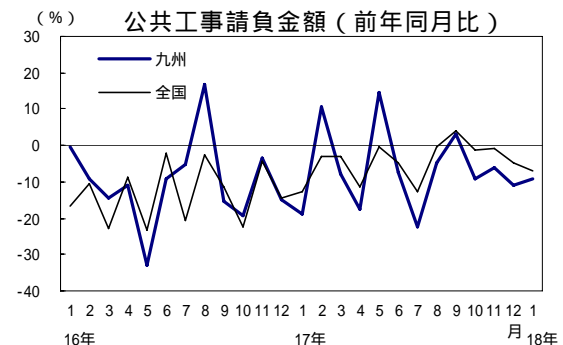
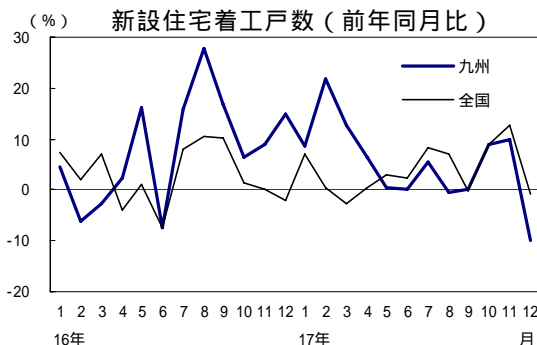
- (備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
九州・沖縄地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、給与が前年を下回ったものの、分譲、貸家が上回ったことから全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

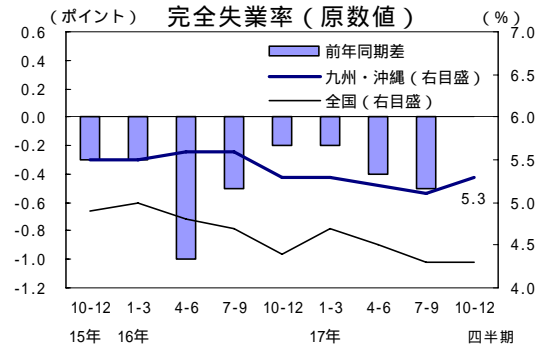
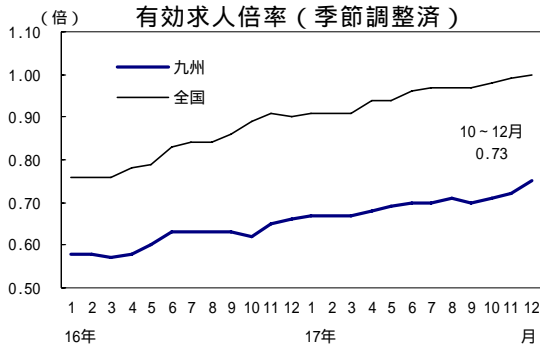


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

「最近の傾向として人手不足感が続いている。特に若いフリーター層の採用が難しくなっている(求人情報製作会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

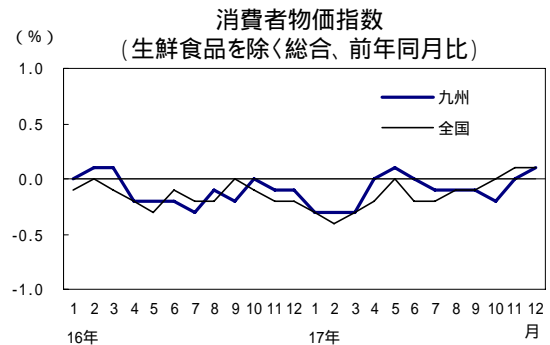
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

企業倒産は、1月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	18年1月
倒産件数	275	315	270	237	77
(前年比)	8.3	9.8	4.6	20.7	8.3
負債総額	872	1845	1148	825	700
(前年比)	10.8	72.4	25.4	21.4	119.4



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・初売は他の競合店を含め、過去最高の売上と動員を記録した。中旬以降、厳しい寒さで伸び悩んではいるが、それでも春物プロパー商品の動きが良い(百貨店)

<先行き>

・製造業、小売業ともに設備投資計画の話が出てきており、中小企業のオーナーが、増産、売上増加を見込んで計画を考えている(金融業)

景気ウォッチャー調査(合計)

